

令和元年度 修士論文・卒業研究題目一覧

卒業研究

酒井ゼミナール

村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』論

——都市と音楽——

加茂 穂 崇

AI時代の国語教育とその可能性

阿知波 光

パランプセスト——森鷗外歴史小説研究——

稲垣 俊 也

吉本ばなな「キッチン」論

——みかげの治癒体験——

井上 ひなた

「青鬼の禪を洗う女」に登場する女性について

河 隅 佑加子

「特別の教科道徳」と国語科の関連について

河 村 茉 夏

棕鳩十と飯田下伊那

熊 谷 澪

夏目漱石の描くアースー王伝説

田 中 陽 向

「嘘八百のリアリティ」にみる富野由悠季の家族論

玉 木 僚

三島由紀夫「春の雪」論

——鼈についての考察——

波多野 初音

遠藤周作論

——合わない洋服の仕立て直し——

前 田 直 樹

グリム童話における魔女

——悪のイメージを追って——

森 由加里

寺山修司論

——映画「田園に死す」を中心に——

柳 瀬 菜 月

「不如帰」

——人々に受容された虚構——

榊 原 優 尚

「細雪」論

——妙子の造形をめぐる——

森 本 愛 深

柳沢ゼミナール

後藤ゼミナール

『男色大鑑』 「傘持つてもぬるる身」 で描かれる衆道の誠

恩田陸 『蜜蜂と遠雷』 におけるピアノの音の表現方法

宇田陽美

碓井里優也

『春色梅児誉美』 における女性の特徴と魅力

歴史上に実在した人物がモデルとなった

唐澤千晶

キャラクターの話し方について

『伽婢子』 の異郷訪問譚

—— 創作キャラクターとしての織田信長 ——

—— 浅井了意の日本化の手法をめぐって ——

杉山雪乃

勝田真菜

現代文語短歌の語彙

加藤駿

溝口健二 『雨月物語』 論

仲菜里

一般小説とライトノベルの書き分けについての考察

清水光洋

—— 阿浜・若狭・宮木を中心に ——

山崎耀太

歌手「あいみょん」の歌詞の数量的分析

高橋瑠璃花

『雨月物語』 に描かれた女性

井樋夢叶

菓子類におけるネーミング構造についての研究

中村天翔

『雨月物語』 の原作と映画の比較

田島比菜

女性向けCD（シチュエーションCD）作品における

男性キャラクターの言葉遣いについての考察

怪談ではない 『怪談牡丹燈籠』

松本大樹

『にくい』と『ぶらい』の違いについての考察

百瀬秋香

—— 円朝が描いた四人の女性 ——

芥川龍之介が経験した関東大震災

『にくい』と『ぶらい』の違いについての考察

横井葉月

沖方丁『マルドゥック・スクランブル』における

振り仮名の役割についての考察 大森直弥

翻訳ミュージカルの台詞描写から見た

表現の違いについての考察

——ミュージカル『エリザベート』における日墮比較——

兼松美桜

原作小説のコミック化におけるオノマトペについての考察

葛野未來

中島みゆきの歌詞についての分析 寺前珠来

徳竹ゼミナール

『虚無僧』と『暮露』に関する認知の誤解について

稲熊康平

猿神退治譚と『グレートマザー』との関係について

岩原彩

説話から見る藤原保昌の人物像

——弟・藤原保輔との比較—— 笠原俊吾

橋の役割と橋に潜む怪異 北川聡一郎

メレディス・ウエザビーの英訳本について

——三島由紀夫『潮騒』と謡曲『善知鳥』——

倉知柚衣

『古事記』ヤマトノヲロチ神話から見る日本人の自然観

鷲見学

呪具と呪具を与える者の関係について

——『鉢かづき』を中心に—— 竹之内都

『弁慶の物語』それぞれの弁慶像

——書写山炎上を中心に—— 中村朱里

勝亦ゼミナール

『源氏物語』論 若紫巻 上野有貴

『源氏物語』における菊の役割 岩井佳子

『源氏物語』宇治十帖の音

——浮舟にまつわる聴覚表現から—— 清水美優

末摘花の再発見について 田邊侑季香

源氏物語における色の考察 永井丈流

大鏡論

——構造と和歌について—— 西脇透哉

- 『古今集』における掛詞 廣瀬 菜里
- 『小右記』にみる藤原美資 堀 詩織
- 『源氏物語』における女性の容姿描写について
——紫の上・末摘花・花散里の比較—— 前澤 美菜
- 百人一首における「夜明け」の表現について 吉川 可菜
- 福井ゼミナール
- 万葉集における酒 池上 千里
- 大伴旅人を中心に——
- 『古事記』における復讐 上野 雄登
- その動機を中心に——
- 三代和歌集における愛情表現 内田 みのり
- 『今昔物語集』における狐婚姻譚 内山 和明
- 離別を中心に——
- 三和歌集における梅 小黒 瑞季
- 色と香りを中心に——
- 『今昔物語集』における死因について 冥界と地獄の鬼について
- 因果応報を中心に—— 勝又 祐貴
- 浦島伝説における異界 桑原 可奈子
- 歓待を中心に——
- 美女の変遷 長崎 楓
- 古代から唐代まで——
- 『三国志』と六朝志怪の予言 野間 勇樹
- 衰亡の予言を中心に——
- 『今昔物語集』における罪 深谷 奈央
- 伊耶那美命の呼びかけ 古橋 充行
- 漢籍の影響——
- 『源氏物語』における罪意識 堀 元樹
- 密通を中心に——
- 『源氏物語』物の怪と紫式部 矢野 葉月
- 六条御息所を中心に——
- 『源氏物語』と『今昔物語集』における祈り 横井 勇哉
- 身分による違いを中心に——
- 三和歌集における山 奥出 璃央
- イメージの変遷を中心に——

- 仕事の内容を中心に ——
加藤 優貴 『近代能楽集』 「綾の鼓」 における舞台表現について
- 日本における桃イメージの変遷
佐久間 有美 『近代能楽集』 「熊野」 における舞台表現と解釈
- 記紀万葉を中心に ——
- 大池ゼミナール
鈴木 舞菜 『近代能楽集』 「卒塔婆小町」 における舞台表現と主題
- 欧陽詢と九成宮醴泉銘について
佃 知香 『近代能楽集』 「葵上」 に見る舞台表現と仕掛け
- 北魏・隋の書と比較して ——
中川 隼輔 『近代能楽集』 「綾の鼓」 における表現の仕掛けの考察
- 甘露ゼミナール
中村 春花 『近代能楽集』 「邯鄲」 における舞台表現と時代背景
- 『近代能楽集』 「綾の鼓」 における舞台表現と解釈
沢田 美七海 『近代能楽集』 「邯鄲」 における舞台表現と時代背景
- 『卒塔婆小町』 に見る三島由紀夫の「想像」の問題
丹羽 海斗 『近代能楽集』 「班女」 の作品解釈と表現技法
- 山藤 涼太 『近代能楽集』 「班女」 の作品解釈と表現技法
- 『近代能楽集』 「能野」 における舞台表現について
藤宮 由希 『近代能楽集』 「班女」 における
- 安慶名 美月 『近代能楽集』 「班女」 における
- 『近代能楽集』 「卒塔婆小町」 における表現技法
芸術作品と芸術家の関係性の考察 牧 英里香
- 新井 未紗 『近代能楽集』 「邯鄲」 における三島のメッセージと表現
- 『近代能楽集』 「葵上」 における舞台表現
宮崎 創輔
- 井坂 美紀

『近代能楽集』「班女」における表現の仕掛けの考察

山川 弥耶子

幼児向け絵本の語彙の対象年齢別比較

——「自然」「乗り物」の語彙を中心に——

桑原田 菜

佐田 実優

須賀 美里

菅尾 さやか

宮内ゼミナール

梶浦由記の歌詞の特徴

臼井 美結

ライトノベル文学における「軽い」文章

——文章の形式的特徴に着目して——大濱 大輔

旅行ガイドブック『まつぶる』のテキスト分析から

探る「名古屋」の観光地イメージ 岡田 佳奈

『千と千尋の神隠し』にみる役割語

岡部 文香

女性アイドルソングの一人称

奥田 真貴志

『戦つお姫様』の言語表現

——『暁のヨナ』を例に—— 葛西 千奈美

ヒットする「pop」の特徴について

——米津玄師の歌詞に見る—— 勝見 心

女性語の推移とキャラクター形成

——『ゲゲゲの鬼太郎』猫娘と

人間側ヒロインを通して—— 北原 侑季乃

「のぼる」の漢字表記調査

YouTube動画の文字テロップについて

キヤッチコピーにおける文末の格助詞について

『愛される』日本語

——令和元年の意識調査—— 田所 七海

amazarashi・秋田ひろむの歌詞における表現特性

野原 菜摘

色彩語「青い」「赤い」のイメージ調査

福村 文菜

『コナシ敬語』の実態調査

——「いただく・くださる敬語の新用法——

堀尾 奈美

形容動詞語幹に格助詞が後接する用法について

——「が」と「を」を中心に—— 山田 恭子

カタカナ語の浸透

——「フォローアップ」・「インバウンド」を例に——

渡邊 緑子

日常の依頼場面における「言語スタイル」の相違

平川 桃香

謝罪における文字言語と音声言語の比較

——同一人物による会見とブログや

FAXを対象として——

山本 哲平

宮澤ゼミナール

ファイラーからみたわかりやすい講義の話体の研究

水谷 文則

西嶋ゼミナール

「やばい」のSNS使用における捉え方と問題点

伊藤 花奈美

印象の違い

山村 駿平

『小林賢太郎テレビ』の「非日常の中の日常」における

表現方法の変化

長内 彩香

ノスタルジア喚起CMの効果的活用法

河田 梨沙

聞き手の年齢の違いによる話し方の変化の考察

熊澤 多門

オノマトペの発声が動作に与える影響

小暮 夏実

誤解発生時に行われる言語行動についての考察

小島 千明

映画広告の広告表現検証

小暮 夏実

ネットスラングの波及と変遷

鈴木 響太

——日米映画広告の比較から考える——

渡會 洋子

言語表現の違いによる伝わりやすさの実証的研究

高村 美涼

名古屋市とその周辺地域における観光客誘引のための

無料版大手旅行雑誌の有効性検証及び効果的活用法

安藤 ひかり

津市における若年層流入促進戦略

—— 流山市の成功例を参考に —— 加太那奈

コミック実写映像化のもつ

書籍・俳優のプロモーション効果 狩野美音

アイドルを起用したテレビCMの効果

—— ボカリスエットを例として —— 楠木佳乃

現代社会における企業文化誌の有効性検証

—— 花椿を中心に —— 齋藤日向子

マンガ創作におけるフォント選択有効性の検証

佐藤友希乃

恋愛表現を用いた広告の変遷と広告効果

鈴木遥香

フィルムツーリズムにおけるロケ地巡礼マップの

有効性検証

—— 新潟県弥彦村を題材として —— 高橋志帆

現代におけるジェンダーフリー広告の有効性検証

—— ハウスメーカーを事例に —— 土田琴

映画予告編のネタバレが持つ広告効果の検証

土井涼雅

犬山市の居住者と観光者に向けた広報戦略提案

中野志保

字幕翻訳における3点リーダーの有用性及び有効な表記法

—— ハリー・ポッターシリーズを題材に ——

長尾綾音

シリーズCMにおける物語性の効果とその新たな活用法

平野好美

名古屋におけるファンツーリズム需要と促進

前涼花

平塚セミナー

説得力を構成する要素の研究

遊び歌の源流と派生

中丹波地域におけるテヤ敬語の使用と意識

阿部恭兵
新井桃代

三重県津市方言における否定辞について

日下航希
森敬太

三重県南部地方方言における行為指示表現

山中純平

漫画『ONEPIECE』でみられる役割語

——ヴァーチャル方言に注目して——

榎谷俊郎

愛知県江南市地域における若年層の方言使用について

掛布隆宏

サッカー実況中継における実況者の言語使用

小島由雅

三重県松阪市方言の待遇表現の変化について

添巧実

福井市方言の終助詞の記述

田中雄大

愛知県出身・在住の若者のエセ関西弁の特徴と

使用実態・意識調査

谷口仁美

テレビショッピングの談話構造と説得ストラテジー

徳本彩夏

愛知県北名古屋市方言の教科書

成田萌那

年代別女性ファッション雑誌からみる

言語の使われ方の違い

新村絢子

鳥取県東部の方言テキスト

平岡麻里

京都市方言の2世代間の方言差について

二橋美乃里

関西方言アクセント・イントネーションが

聞き手に与える影響

松井大河

村岡ゼミナール

淳和・嵯峨の「薄葬」からみる山陵認識

——祭祀の変遷と良房の思惑——

青木佑磨

説話からみる冥界観の変化

荒木さなえ

古代男女の禁忌

——『古事記』を中心に——

飯田高央

『日本書紀』、『続日本紀』における年号改元

——奈良時代を中心に——

太田一綺

北条政子と鎌倉幕府

大村知里

「呼び叫ぶ」古代の人々

——訴訟の場を中心に——

岡田世玲奈

古事記上巻における神々誕生への考察

関谷樹由

甲尾同盟の成立から崩壊

——武田氏の遠江・三河侵攻と岩村遠山氏——

田澤大樹

小早川隆景と織豊政権

鈴木夢乃
田中元規

古代における肉食忌避の根底

谷阪駿弥

文禄期の豊臣政権下における宇喜多秀家

中川創喜

平安時代における独立した陰陽師の成立

中畑早紀

天正期の足利義昭將軍権力

鱧部優太

古代・中世の離婚

生川華子

小川ゼミナール

古代・中世における天皇の花押と名前について

伴華奈

近代における監獄制度の成立と教誨師

青墓長者大炊について

——『平治物語』に見える長者像の変容——

村上貴久

ジャポニスムとジャパンブル

井上奈々

村上貴久

——浮世絵と藍の国——

上田あい

播磨ゼミナール

四国遍路の成立と変遷

尾張・伊勢・美濃の真宗寺院と長島一向一揆

伊藤冴映

——江戸時代の遍路の実態と廃仏毀釈の影響——

落合渉花

伊藤冴映

近世後期の産育書と女性の役割

落合渉花

豊臣秀吉の正室おねが担った役割と天皇家

後藤綾子

——『安産幸運録』『児童素見』を中心に——

齊藤詩歩

後藤綾子

齊藤詩歩

万次郎がもたらした海外情報の活用

—— 黒船来航後を中心に —— 土岐輝之

大塩平八郎生存伝説と英雄像誕生についての一考察

—— 反乱者から英雄へ —— 村上純

「ええじゃないか」と東三河地域神職集団

—— 国学者羽田野敬雄を中心に —— 山口達也

近世後期における尾張の名所と名産

—— 名所図会・番付を中心に —— 横村亜美

慶応三年パリ万国博覧会にみる幕末の政治情勢

永田宏美

近世伊勢湾地域における木綿流通体系と白子廻船

西野恭平

近世大名の婚姻と交流

—— 尾張家・浅野家を中心に —— 平林梨奈

尾張藩領における豪農層の地域的特質と公事出入取扱人

—— 春日井郡児玉村庄屋大矢作左衛門重治を事例に ——

前田蒼太

白根ゼミナール

幕末期の対外政策とジョン万次郎

日野将平

中元ゼミナール

尾張藩における鮎鮪献上

奥村侑一

明治時代における『女学新誌』と女性像

言行録に見る松平信明の明君像

川島綾花

石岡伶菜

遊女の人生にみる近世社会

小林舞華

競馬法の成立意義と『日本競馬史』の史料的信憑性

『孝義録』にみる江戸時代の女性と地域社会

小林舞華

岡純平

河野一郎と食糧管理制度

尾張徳川家の大名親交と江戸屋敷

高柳侑里

—— 二つの食糧管理制度の改正を中心に ——

郡上藩宝曆騒動の様相と顕彰活動

寺本雄哉

小原拓也

刈谷藩医の地域医療活動

永坂和史

明治期の小学校での唱歌教育の展開

——愛知県・静岡県の場合—— 折原 輔

福沢諭吉門下の関連事業と慶應人脈

——早矢仕有と中上川彦次郎を中心に—— 瀧 風 歌

福沢桃介の政界進出とその背景 榊 原 はるか

明治後期から昭和戦前期における知多半島の開発

——愛知電気鉄道、『名古屋新聞』のメディアイベントを中心に—— 鈴木 康 平

四日市市の戦前戦後における都市計画 鈴木 創 太

昭和天皇訪欧の政治的経緯と新聞報道 高 木 亮 佑

戦時期の映画国策 その始まりと実効性 高 橋 直 希

景山英子の人物像 高 橋 里 奈

昭和期における日本海軍の特殊被服

——下士官兵の防暑被服・防寒被服・陸戦隊被服の

変遷を中心に—— 恒 川 直 輝

名古屋近郊都市における工業誘致と町づくりの違い

——豊田市・三好町・日進町を中心に—— 富 成 遼 多 郎

明治後期から昭和戦前期における名古屋市東部の都市計画

——八事丘陵地を中心に—— 野 村 俊 太 朗

政友本党の政策と愛知床次会の考察 長 谷 川 智 大

明治後期における『名古屋新聞』の

メディアイベントと経営戦略

——愛知縣下町村視察旅行競争を中心に——

本 部 はる香

小早川ゼミナール

上棟式と餅撒き

伊勢型紙をめぐる民俗と存続への課題 伊 藤 明 登

福井県の「孫守り」意識と共働き文化 小 倉 輝 也

「御神酒上げ」の民俗

——岩手県岩手郡葛巻町元木地区を例に——

加 藤 諒

愛知県丹羽郡扶桑町の養蚕民俗

門 脇 大 地

宿帳から見る下呂温泉

金子 詩緒莉

カキ養殖の民俗

久保田 鈴菜

西陣織の系染技術と民俗

黒嶋 柚月

富士川流域におけるどんど焼きの民俗

田代 充彦

駆け馬の民俗

——高浜おまんと祭りを中心に——

中居 佑香

地方都市における民俗の変容

——愛知県豊橋市における事例から——

狸々と大人形

沼野 功武
藤本 凌

都市祭礼の課題

——拳母祭りを中心に——

松井 佑樹

ペット葬儀からみる供養の意味

松本 圭一朗

「モノ供養」からみた「モノ」への意識

本嶋 将大

岐阜県におけるアユの利用と現状

渡辺 溪斗